川崎市外国人市民代表者会議
（第１４期 第１年 第１回 第１日）
議事録

１　日時　２０２２（令和４）年４月１７日（日）　午後２時～５時

２　場所　川崎市国際交流センター

３　出席者

（１）代表者　２５人

アブドゥル　ジャリル、李　智永、イトウ　ユリカ　キャレン、グェン　チュン　ザン、グェン　ヌー　フォン　ザン、戴　淑、タパ　ラメス、ドゥマヤス　アリャン、野田　ユワリー、バ　アブ、ヒリストバ　ガブリエラ、フィゲイロ　キム　リリアン、ブリツィナ　タチヤナ、ペレーラ　ラヒル　サンケータ、マイ　アサエル、ムハマド　アイマン　アリフ、楊　子宜、ユデク　マルチン、尹　智夏、李　歓歓、李　晨、刘　英杰、林　芳安、レイバーマン　ケビン、ロティーニ　フェデリカ

（２）事務局

山根　部長、佐藤　課長、菅原　担当課長、佐藤　課長補佐、山本　担当係長、五十嵐　職員、髙橋　専門調査員

４　傍聴者　５人

５　会議次第（公開）

（１）開会

（２）事務局説明

（３）委嘱式

（４）集合写真撮影

（５）配布資料の確認

（６）事務局の紹介

（７）代表者の自己紹介

（８）正副委員長の選出

（９）年間日程について

（１０）視察について

（１１）事務連絡

（１２）閉会

【開会】

（開会し、事務局から今日の日程について説明）

【委嘱式】

（委嘱状の交付）

【福田市長のあいさつ】

福田市長「第１４期外国人市民代表者会議のみなさんに委嘱をさせていただいたが、まずは市政に参加しようと思っていただいたことに心から感謝申し上げる。みなさんの応募申請書を見せていただいたが、まちのことを思い、あるいは自分たちの経験を周りの人たちのためにも生かしていきたいという思いが伝わってきてとても感動した。一昨日、第１３期の委員から３つの提言をいただいたが、いずれも川崎市にとって大切なものだと思っており、実行していきたいと考えている。これまでにいただいた５５の提言も川崎市にとって大事なものばかりで、市では１つ１つできることをやってきた。

この２年間、コロナでコミュニケーションがとりにくかったり、いろいろなものが制限されたり、といった厳しい環境にあったかと思う。また、そうした中で残念なことも起きているが、あえて、この機会をともに認め合う、共生していくというチャンスにしていくべきだと思っている。この外国人市民代表者会議は本当にいろいろな国や地域の方たちが集まっているが、みなさんは自身の国や地域を代表しているということではない。川崎市に住んでいるすべての外国人市民の代表として、多くの方たちの声を聞いていただいて、川崎市の市民が本当に共生していくための素晴らしい提言をまとめていただきたいと思っている。

現在、川崎市には１３０を超える国や地域の方たちが住んでいる。人口だと４万３，６００人以上、人口比率でいうと２．８％になるが、これからもっと増えていくと思う。川崎市は外国人にも日本人にも選ばれる都市でありたいと

思っている。ここに映っている「Ｃｏｌｏｒｓ，Ｆｕｔｕｒｅ！いろいろって、未来。」というのは、私たちがこれまでも、そして、これからも多様性こそ可能性だし、その可能性こそ私たちのまちをつくってきたのだということを示しているブランドメッセージだ。２年後の２０２４年には、川崎市政は１００周年を迎える。わずか４万８，０００人で始まった市だが、今は１５４万人近い。私くらいの世代は川崎市生まれ川崎市育ちというのが出てきたが、私の親くらいの世代では川崎市生まれというよりも、日本国内外のいろいろなところからやって来た人たちが多かった。今でも川崎市というのは転入・転出がすごく多いが、そうした多様な人たちが集まる中で、川崎市は発展してきたという歴史がある。その歴史をこれからも大切にして、そしてそれこそが私たちの価値だということを示していきたいので、みなさんの力も貸していただきたい。これから２年間、どうぞ調査審議をよろしくお願いいたします。」

（集合写真の撮影）
（配布資料の確認）

【事務局の紹介】
（事務局山根部長から事務局の紹介）

【代表者の自己紹介】
アブドゥル委員「インドネシア出身だ。外国人としていろいろな問題や困ったことをみなさんと一緒に話して、川崎市をもっと生活しやすいまちにするのに貢献したいと思い応募した。」
李智永委員「韓国から来た。日本に来て４年が経ったが、留学などの経験もなかったのでいろいろと苦労をした。周りの日本人に助けられて何とか乗り越えることができた。その経験を生かして、外国人市民だけではなく、日本の人たちも助けられる、住みやすい川崎市のまちづくりを目指して活動していきたい。」
イトウ委員「出身はアメリカのシカゴだ。私はアメリカから日本に戻ってきたときに、いろいろな細かいルールがわかりづらかったので、そういったものがクリアになって、みんなが気持ちよく住めるまちづくり、日本人も外国人も住みたいなと思えるまちづくりに貢献できたらと思う。」
グェン　チュン委員「ベトナムから来た。２０１７年に留学生として来日して、現在

は社会人３年目になる。少子高齢化が進んでいる日本の労働者不足を解消するために、日本人とともに、外国人が生活しやすいまちづくりについて議論していきたい。」

グェン　ヌー委員「ベトナムから来た。日本に来て１２年経った。最初は留学で、そのあと社会人になり、結婚して、今は仕事をしながら子育てもしている。２年前に川崎市に引っ越してきて、いろいろな子育ての悩みをもつようになったのが応募したきっかけだ。仕事もしているので、地域の人とのつながりもあいさつくらいしかなく、困ったときに誰に助けてもらえばよいのかもわからない。つながりは自分からつくらなければいけないと思い応募した。」

戴委員「中国から来た。日本に来たのは２００９年、川崎市に引っ越してきたのは２０１９年だ。応募したきっかけは２つある。１つ目に、仕事をしながら子育てをしているのだが、川崎市に引っ越したときに子どもの転園とか、幼稚園探しで苦労した。とくに日本語が話せない人たちがすごく困っている。２つ目に、一方で日本語が話せる人たちもいるので、そうした人たちとつながっていく、そういったコミュニティがつくれたらと思っている。」

タパ委員「ネパールから来た。日本で生活している中でいろいろと困ることがあったが、次に来た人たちが困らないようにそうした経験を共有して、住みやすいまちづくりの役に立てればと思って応募した。」

ドゥマヤス委員「フィリピン出身だ。前期の経験を生かして、川崎市にできることを確認しながら実現できる提言を一緒に考えていきたい。」

野田委員「タイのバンコク出身で、２００５年くらいに留学ではじめて日本に来た。留学が終わって、タイに戻って、日系企業に勤めていたが２０１３年ぐらいに結婚して川崎市に住み始めた。いろいろな国の方がいるので、意見を交換しながら、自分の経験を生かせたらと思っている。」

バ委員「セネガルから来た。この会議で話したいことは、多文化そのものだ。私は日本に来て困ったことはないのだが、どうして困っていないのかという経験を共有することで、外国人が困らないだけではなく、日本人も困らないようにできるのではないかと思う。」

ヒリストバ委員「ブルガリア出身だ。２０１７年に日本に来て５年が経つが、ずっと川崎市に住んでいて、とても住みやすいまちだと思っている。けれど、なぜか評判がよくなかったりもするので、もう少し力を入れて、川崎市の評判をよくすることに貢献したいと思っている。外国人も市民だと言ってくれる川崎市

がさらに住みやすいまちになるように、みなさんとアイディアを出し合って、外国人と日本人の関係構築に貢献できたらと思う。」

フィゲイロ委員「ブラジルの南のリオグランデ・ド・スル州から来た。応募したきっかけは、子どもがそろそろ２歳になるのだが、仕事をしたいと思ってもなかなか保育園に入れなくて、今は一時保育に入って仕事を探しているのだがなかなか難しい。去年の１１月に地域子育て支援員の資格を取ったので、その経験と学んだことを生かして、誰かの役に立てればと思っている。」

ブリツィナ委員「ロシアのウラジオストク出身だ。代表者会議では、効率的な情報発信について話し合いたい。」

ペレーラ委員「出身はスリランカで、１９歳で日本に来て約１８年間住んでいる。川崎市には結婚を機に引っ越してきて、５年目に入った。前期に子どもが生まれたタイミングで何か貢献できたらと思い応募して、実際にすごくよい会議だなと思ったので今回も応募した。会議では町内会の活用方法や保育関連のことについて、みなさんと話し合いたい。」

マイ委員「メキシコから来た。日本に来て１２年で、８年半くらい川崎に住んでいる。小学生と幼稚園の子どもがいるのだが、日本人と外国人が相互理解を深める教育環境について話し合いたい。」

ムハマド委員「マレーシア出身だ。第１３期の経験を生かして、困っている外国人のために貢献したい。会議で話し合いたいことは、去年、川崎市が開催したオリエンテーションがあるのだが、参加する人が少なかったので、どうすればもっと参加者が増えるのか、みなさんとアイディアを交換したい。」

楊委員「台湾の高雄という港町の出身で、日本に来てちょうど１１年経つ。就職だったり、結婚だったり、出産だったり、いろいろな経験をしてきたが、ちょうど１０年が経ったタイミングで募集があり、これまでの経験をアウトプットして、自分と同じような経験をしている人のために貢献したいと思って応募した。外国人のファミリー層に向けて川崎市のまちや人に触れあえる機会を促進して、生活や子育てで困っていることをサポートしあう環境づくりについて話し合いができればと思う。」

ユデク委員「ポーランド出身で、日本には２００５年に来て、２０１７年から川崎に住んでいる。会議では、環境と安全について話したいと思う。」

尹委員「韓国出身で１９９４年に日本に来た。１３期もやっていたのだが、もう１期やろうかと思い１４期に応募した。子どもが２人いて、ほぼ子育ては終わった

状況なのだが、いろいろなことを経験してきたので、そうした経験について話し合えたらと思う。」

李歓歓委員「出身は中国だ。この会議では、日本語が苦手な人がどうすれば生活しやすくなるようにサポートできるか、みなさんと一緒に話し合いたい。前期のときに川崎市が開催したオリエンテーションに参加して、そのときに日本に来たばかりの子に出会って今でもやり取りを続けているのだが、私たちは区役所に行って手続きができるが、その子は家族もまったく日本語ができないので、非常に困っているということをはじめて知った。私たちのように日本語が話せる人が、そうした人たちに目を向けて助けてあげられるようにしたい。」

李晨委員「出身は中国だ。２００８年に来日して１４年くらい住んでいるので、比較的長い方だと思う。長い分、失敗もたくさん経験した。当時はいろいろなことを知らなかったし、そもそもどこを見ればよいかもわからない状態だった。そうした経験を生かして、困っている人のサポートができればと思う。」

刘委員「出身は中国の天津だ。２０１３年に２０歳で来日して、８年半くらい経ったがそのうちの６年間、川崎市に住んでいる。この会議で話したいことは、みなさんも病気やけがをしたときに何科で受診すればよいのか悩んだことがあると思うのだが、病院受診のわかりやい案内ポータルをつくりたいと思っている。」

林委員「昨年の２月に川崎に引っ越して来た。台湾出身だ。これまで東京や横浜に住んできたが、こういった会議はなかったのでとても新鮮に思い応募した。自分も家の近くにどのくらい外国人がいるのかまったく把握できていなくて、みなさんの話を聞いていても川崎市にはもっと改善できる余地があると感じた。みなさんと一緒に素晴らしい提言ができればと思う。」

レイバーマン委員「出身地はアメリカのシカゴだ。日本に来てもう２０年になるが、川崎市のよいところをいろいろ発見できたので、そうした情報を新しく川崎に来る人たちに紹介したいと思っている。会議では、転入者へのウェルカムセットの充実について話し合いたい。それと、災害時のボランティア活動についてやはじめて日本に来た人たちの部屋探しについても難しい課題があると思うので話し合いたい。」

ロティーニ委員「イタリアから来た。日本にはじめて来たのは２００８年で、川崎市に引っ越してきたのがちょうど３年前になる。川崎市に来る前は新潟に住んでいて、川崎のイメージはあまりよくないと聞いていたのだが、実際に住んでみ

たら聞いていたイメージとは違った。今回、応募したのは去年の９月にイタリアから息子が引っ越してきて、生活を始めたところなのだが教育の問題、学校の問題などいろいろな課題が出てきて、もしかしたらこれからいじめの問題も出てくるかもしれないなど、不安になっていたところに募集案内が届いたので応募した。私と同じような外国籍の母子家庭というのは少ないとは思うが、ほかにもいると思うし、日本人でも同じ悩みをもっている人もいると思う。」

【正副委員長の選出】

事務局佐藤課長「それでは、これから委員長と副委員長を選出していただく。選出までのあいだ、山根部長が仮議長として進行するということでよいか。（　異議なし　）」

山根部長「はじめに、委員長と副委員長の役割などについて事務局から説明をお願いする。」

（事務局髙橋専門調査員が資料２に基づき説明）

山根部長「何か質問はあるか。（　なし　）それでは、次に委員長、副委員長の選出方法について説明を願いする。」

（事務局髙橋専門調査員が資料２に基づき説明）

山根部長「何か質問はあるか。（　なし　）それでは、事務局の案以外に何か提案がある人はいるか。（　なし　）それでは、事務局案でよいという人は手を挙げてください。（　全員賛成　）それでは、まずは委員長の選出からだ。委員長に立候補したい人は手を挙げてください。（　挙手　）それでは、推薦をしたい人は手を挙げてください。（　推薦　）」

立候補　－　バ委員

推薦　　－　ペレーラ委員（→承諾）

山根部長「それでは、１人ずつ１分程度でスピーチをお願いしたい。」

バ委員「最初に誰も手を挙げなかったのがちょっとショックだった。せっかくなので、力を出して全部やりたいと思っている。みなさんがやりたいことをどうやってまとめるか、というのが一番大事だと思っている。会議の中で議論することはたくさんあると思うが、私はアクトが大事だと思っている。代表者として、

川崎市を代表して外国人と日本人が１つになって、どうやって住みやすい川崎をつくるのかということが大事だ。外国人だけのアイディアではなく、日本人に受け入れられる方法でないと絶対に住みやすい環境にならない。私は日本で困っていないと言ったが、それは日本人が助けてくれるからで、その経験を今度は次に来る外国人とシェアをすることが大事だと思う。私の経験とみなさんの力を合わせて、この第１４期を会話ではなくて、アクトの期にしていきたい。」

ペレーラ委員「１３期でも委員長を務めたが、委員長は何か特別な役割や権限をもっているわけではない。会議の中でいろいろなことを決めるので、代表者のみなさん全員が主役だ。委員長はそれを手伝って、よい提言をまとめていくのが役割だと思っている。ただし、委員長は市長への報告など、みなさんや市内に住む外国人市民の代表ということで発言したり、意見を求められたりするので、そういう意味では責任は重い。もし選ばれたら、そういった部分にも気をつけて、みなさんのサポートをしっかりやっていけるようにしたい。」

＜投票＞

バ委員（→６票）

ペレーラ委員（→１８票）

無効票（→１票）

山根部長「投票の結果、委員長はペレーラさんに決定した。続いて、副委員長の選出に入りたい。まず、立候補する人は手を挙げてください。（　挙手　）次に、推薦をしたい人は手を挙げてください。（　なし　）」

立候補　－　李歓歓委員

山根部長「では、スピーチを１分程度お願いする。」

李歓歓委員「勇気を出して手を挙げたが、実はすごく緊張しやすいタイプだ。前期の２年間の経験を生かして、今期の会議を円滑に進められるように、みなさんと議論していきたいと思う。私と同じように緊張しやすい人もいるかと思うが、幅広い意見を取り入れるためにも、１人ひとりに気持ちを配って、みなさんが主役になって話しやすい場にしたい。」

山根部長「では、副委員長に立候補した李歓歓さんに賛成の人は手を挙げてください。

（　全員賛成　）では、副委員長は李歓歓さんに決定した。委員長と副委員長が選出されたので、あらためてあいさつをお願いする。」

ペレーラ委員長「選んでいただきとても光栄に思う。前期の経験を生かして、２年間みなさんが話しやすい環境をつくっていけたらと思う。何か相談したいことがあれば、話しかけて欲しい。みんなで一緒になって考えて、みんなで解決していく会議にできたら、とても嬉しい。これから２年間、よろしくお願いいたします。」

李歓歓副委員長「みなさん、選んでいただきありがとうございます。私も再任だが、ぜひみなさんと一緒に話し合いながら、勉強しながら、成長していきたいと思う。どうぞよろしくお願いいたします。」

山根部長「それでは、このあとは委員長と副委員長に進行をお願いする。少し事務局と打ち合わせをさせていただきたいので、１０分ほど休憩とする。再開は１６時５分からということでお願いする。」

（　休憩　）

ペレーラ委員長「それでは、会議を再開する。まずは、次第９の年間日程についてだ。事務局から説明をお願いする。」

（事務局五十嵐職員が資料３に基づき説明）

ペレーラ委員長「何か質問がある人はいるか。（　なし　）何か意見がある人はいるか。（　なし　）それでは、決をとる。資料にある日程案に賛成の人は手を挙げてください。（　全員賛成　）それでは、２０２２年度の日程が決定した。毎回の会議に出席できるように、予定の調整をお願いする。次に、次第１０の視察について審議する。事務局から説明をお願いする。」

（事務局髙橋専門調査員が資料４に基づき説明）

ペレーラ委員長「何か質問はあるか。」

戴委員「フィールドワークとの違いがわからなかったので、補足説明して欲しい。」

事務局髙橋専門調査員「フィールドワークはみなさんが希望すれば何回でも可能だ。今回決めてもらう視察との違いは、１年目に１回だけ、半日バスを使うことができる。」

刘委員「実際に審議に生かすための経験として、具体例があれば教えて欲しい。」

事務局髙橋専門調査員「たとえば、市民ミュージアムは川崎市の成り立ちなどの歴史を知ることができる。日本民家園や藤子・Ｆ・不二雄ミュージアムは多言語対応が充実しているので、そういった部分で参考になる。教育文化会館や市民

館、ふれあい館などは施設の見学というよりも、そこでどのような活動が行われているのかを聞く感じだ。」

ヒリストバ委員「フィールドワークでは具体的にどのような活動をするのか。ボランティア活動などをするのか。」

事務局髙橋専門調査員「視察もフィールドワークも基本的には、代表者たちが何か活動をするというものではない。」

ヒリストバ委員「フィールドワークについては理解できた。フィールドワーク以外に、たとえばゴミ拾いでもよいがボランティア活動などをしたりはできるか。」

事務局髙橋専門調査員「可能だ。会議以外にこういった活動をしてみたいということがあれば、まずは相談、提案していただいて、できるだけ調整をして実現できればよいと思う。」

ペレーラ委員長「ほかに何かあるか。（　なし　）それでは、視察について実施することに賛成の人は手を挙げてください。（　２４人　）過半数なので視察を実施することに決まった。日程や視察先については、次回以降の会議の中で決めていきたい。今日の議事は以上だ。事務局から事務連絡があればお願いする。」

【事務連絡】

・視察について

・川崎市国際交流協会からの取材依頼について

ペレーラ委員長「以上で今日の日程は終了だ。次回の会議は５月２２日の日曜日、ここ国際交流センターで開催する。これで２０２２年度第１回第１日の川崎市外国人市民代表者会議を終わりにする。」